



シュート!

～震災復興 スポ少ミニバス交流大会～

8月1日(土)・2日(日)、総合体育館でスポーツ少年団ミニバスケットボール交流大会が開催されました。
 この大会は中越大震災の時に世話になった地域のミニバスケットボールチームを招いて、さらに交流を深めようとして行われたもので、新潟県を含む7県から男女合わせて18チームが参加しました。市内からは男子3チーム・女子2チームが参加し熱戦を繰り広げました。

●今月の主な内容

- 農家民泊～教育体験旅行受け入れ…………… 2～9
- 統計標語全国入選者ご紹介…………… 10
- 数字で見る小千谷市の姿 ㊦～選挙…………… 10
- 子どもの医療費の通院費の助成対象者を拡大…………… 16
- 第25回利雪・遊雪・克雪フェア開催…………… 17
- 「ときめきめぐりあい会員」募集…………… 19

679人

3年間で小千谷市で受け入れた

「また、来るからね。」

都会の子どもたち 農家に民泊 教育体験旅行受け入れ

- 平成19年7月
江戸川区立清新第一中学校
(東京都) 1泊2日
- 平成20年7月
江戸川区立葛西第二中学校
(東京都) 2泊3日
- 平成20年7月
江戸川区立小岩第五中学校
(東京都) 1泊2日
- 平成20年8月
江戸川区立小松川第三中学校
(東京都) 2泊3日
- 平成21年5月
八潮市立八幡中学校
(埼玉県) 2泊3日
- 平成21年7月
江戸川区立葛西第二中学校
(東京都) 2泊3日

市では各地域の農家のみなさんなどのご協力をいただきながら、「教育体験旅行」の受け入れ事業を進めています。この事業は、首都圏などの中学校が実施する「林間学校」や「教育体験学習活動」を農家が受け入れ、民泊しながら農業体験や農村生活体験などをするというものです。

小千谷市では平成19年度から、6つの教育体験旅行の受け入れを行いました。今回、中学生を受け入れた各地域のみなさんなどからお話を伺いました。

※本記事中では、農業体験や農村生活体験を行うために一般家庭に宿泊することを広い意味で「農家民泊」、または「民泊」と言っています。また、宿泊先の家庭を「農家」と総称しています。



なぜ「農家民泊」なのか

今、市ではどうしてこの事業に力を入れているのか、これからどのように進めていくのか、農林課農村支援係に話を聞きました。

「交流」で集落ビジネスが できないか？事業の背景

国内では平成18年ごろから「グリーンツーリズム（農村などで楽しむゆとりある休暇を過ごすような考え方）」という言葉が定着してきました。小千谷市では「農村の活性化」「農村と都市の共生」という考え方で、農都共生事業（農村と都市の交流やクラインガルテンの整備事業など）を行ってきました。

そのころ、小千谷市は震災からの復旧段階でしたが、県の農林公社や市内の団体などと情報交換する中で、「交流」で集落のビジネスができないかという話ができました。「農業がなくなる」と言われる中で、集落をどう守るかといったときに、基軸となる農業と、他にきちんとしたビジネスをやっているかなければならないだろうという発想が生まれました。しかし、その時にはこれだという決め手は無かったので

すが、阿賀町と十日町・上越を中心にした二つのエリアが教育体験旅行を受け入れて、民宿などを使い、年間1万人の児童・生徒を受け入れているという話を聞きました。また、県が行っている田舎暮らし体験の事業などで、修学旅行を受け入れて農家に泊めているという先進事例もありました。

ちょうどこのころ、地域の中にも地震の後に、交流で地域を元気にしようという機運が芽生えてきました。地震によって集落が危機感を持ったときに、ボランティアの方など外から人が入ったことを経験し、教育体験旅行を受け入れることでの交流の中で、地域が活性化できるかもしれないという気持ちになりました。

そんな中、県農林公社から「教育体験旅行の受け入れを試みたらどうか」という話

がありました。教育体験旅行に関しては、家を改修したり、設備投資をしたりという初期投資がありません。そこにいる人たちが人材、その地域の専門家として指導してくれるという話から、市としても大きな予算を組む必要はありません。「手間」と「受け入れてもいいという心」そして「生活の技術がある」ということを認識することが受け入れの基本と考えました。

受け入れ経験農家を100軒に

教育体験旅行は、首都圏などでは、農村での民泊を受け入れてくれる場所を探しているというニーズがありました。「小千谷ではどうだろうか」「でもできるだろうか」という不安はありましたが、地域のみなさんの理解もあり「とにかく一回試してみよう」ということになりました。行政の当初の目標として、『受け入れた』という経験がある農家を100軒作ろうと考えました。農家のみなさんも体験だから、やる中で「良かった悪かった」という話が出て、この事業に対する判断ができる。そんなことから、ある程度小さいコミュニティなど、例えば南中学校区とか東山地域などのエリアで受け入れて

もらおうと考えました。また、そうすることに、「地域全体・集落全体でやっている」という感覚で、地域全体の中に、生徒が泊まるということ、「受け入れている」という意識ができてくるだろうと考えたのです。そしてそれが地域の活性化につながっていくものと思います。

ビジネスとして成り立つことが最終目標ですが、精神的な活力も期待しました。「ウチんとも、やりたいや」という達成感もあるでしょう。「地震の時の恩返しだ」という考えもありましたが、とにかくいろいろな地域からやってもらいたい、そうした考えからこの事業が始まりました。

市内各地域の
教育体験旅行受け入れ生徒数
(平成21年7月現在)

- 東山地区／(受入農家延べ47戸)
平成20年8月：江戸川区立小松川第三中学校 (2泊3日)
平成21年5月：八潮市立八幡中学校 (2泊3日)
156人
- 池ヶ原地区／(受入農家延べ9戸)
平成20年7月：江戸川区立小岩第五中学校 (1泊2日)
平成21年7月：江戸川区立葛西第二中学校 (2泊3日)
28人
- 塩殿地区／(受入農家延べ12戸)
平成20年7月：江戸川区立小岩第五中学校 (1泊2日)
平成21年7月：江戸川区立葛西第二中学校 (2泊3日)
38人
- 川井地区／(受入農家延べ20戸)
平成20年7月：江戸川区立小岩第五中学校 (1泊2日)
平成21年7月：江戸川区立葛西第二中学校 (2泊3日)
64人
- 岩沢地区／(受入農家延べ26戸)
平成20年7月：江戸川区立小岩第五中学校 (1泊2日)
平成20年7月：江戸川区立葛西第二中学校 (2泊3日)
80人
- 真人北部／(受入農家延べ34戸)
平成20年7月：江戸川区立葛西第二中学校 (2泊3日)
平成21年7月：江戸川区立葛西第二中学校 (2泊3日)
112人
- 真人里地／(受入農家延べ72戸)
平成19年7月：江戸川区立清新第一中学校 (1泊2日)
平成20年7月：江戸川区立小岩第五中学校 (1泊2日)
平成21年7月：江戸川区立葛西第二中学校 (2泊3日)
201人

長い目でね 何かの折に思い出してくれれば それでいい



真島文夫さん(冬井) / 平成20年小岩第五中、21年葛西第二中の生徒が民泊

正直なところ、昨年は1泊2日の受け入れで、あっという間に終わってしまったという感じだった。これでは交流という感じではなかったと思った。川井地区のほうでも、まったくそういう交流がなくて「今回はやめた」という話も何件かあると聞いている。それこそ一言のお礼もなかった、もうそれっきりで終わってしまった、ということだね。

でも、そんなのは多く期待したってだめなんじゃないかな。長い目でね。子どもたちが何かの折に思い出して「ああ、またあそこに行ってみようかな」というのが、長くやっていったうちにね、一人か二人でもあれば、それでいいんじゃないかなと。そんな感じでやっています。

今回来たのは女の子4人だった。帰るときになんか、ものすごく涙を流し始めて、バスに乗る直前は泣きじゃくってね。こっちは涙腺弱いもんだから、つられて涙が出ちゃったけど。バスの号数聞いても言葉にならなくてさ。指で「2」つくって、2号車って。本当に嬉しかったんだろうね。そういう生徒の姿を見てるとね、ああ、やってよかったなという感じになる。

最初からそんなに過剰なものでなしをしないで、気持ち的に受け止めてもらえればいいかなと。大きな期待や反応を自分では、そこまで希望はしていなかったし、気持ちの中で、子どもたちが「良かったなあ」というのが見えれば、それでいいかなと。継続してやってれば、子どもたちがそれだけの感動を持って帰るといふことで、市のイメージも高まると思うんですよ。



「ぜったい また、来るからね」って

去年と一昨年、町内会長していたので、その時に市から、ぜひ池ヶ原でも受け入れてもらいたいということで、地域に声を掛けて、去年4軒、今年3軒が子どもたちの受け入れをしました。自分としてはいいことだなと思うし、子どもたちは東京から来て非常に喜ぶので、いいんじゃないかと思う。

今年ね、去年受け入れをした家ばかりですので、要領が分かっていたけども、でも最初は不安だった。来てみて会ってみて大丈夫だなと。「あれやってくれ、これやってくれ」と言えばやってくれるし、子どもたちも「次何やったらいいですか」と何にでも積極的でした。

ただ、もう少しこういう事業を周知してもらえれば、泊めてもいいという受け入れ家庭が増えるのではないかと思います。去年も、「そんなら、やったのに」という話があったんです。今年、去年受け入れをした家庭に「今年もどうですか」と直接連絡がきてね。地域説明会みたいなのでもあれば、受け入れをした私たちが体験談を伝えたりして先導できる。「ぜんぜん心配ない」とか話もできるし。地域の中でも中学生が泊まっているのを知らなくて、「そういうのがあるのか」と。受け入れ家庭がいくつかあれば、一緒になっておおいで何かできますし。去年来た子どもたちからも年賀状や暑中見舞いがきたりして、今でも連絡しあっています。今年来た子ども「ぜったい、また、来るからね」って言って帰りましたよ。



村山勝昌さん(池ヶ原) / 平成20年小岩第五中、21年葛西第二中の生徒が民泊

「また、来るからね。」

都会の子どもたち 農家に民泊
～教育体験旅行受け入れ～

継続すること そしてつながりが大切

まあ、最初は大変だろうと思いましたが、周りに結構声を掛けてやってきた。活力というか、集落の中にいる人たちだけでなく、外からいろんな人が入って、特に子どもたちが入ってくるのはいいもんだと思う。今後こういう話を私たちは受け入れていきたいと考えています。泊めてみて「だめだった」というのは聞かないし、集落としても、かなりまとまった感じになっている。

継続することが大事。これ1回きり、1回来て「はいさようなら」ではなくて、例えば社会人になったときまた若柵に来てくれるように、今後はそういう交流の体制づくりをしたい。交流のある早稲田の学生も卒業し社会人になっても会社の休みに秋祭りに来たり、花火をあげに来たりしてくれる。そういう繋がりにしたい。中学生がすぐそういう交流にはならないけど、そんな交流に向けて、次に繋がる形を今後も続けていきたい。そうすることで、地域にいろいろなメリットも出てくる。繋がりが大事だと思う。早稲田の学園祭行った時に、若柵に泊まった中学生が遊びに来てくれた。そういう繋がりができている。



我々も積み重ねの中で、いろいろなことが分かってくる。受け入れが終わると地域で必ず振り返りをやって、良かった点、悪かった点、相手から見て不評だったところなど、みんなで発表しあい振り返っています。次に向けて直すところは直すようにしています。

将来的には、民泊の受け入れをする中で、ノウハウや経験を積んで、「未来会議」で購入予定の古民家を民宿にしたいと思っています。その一つのステップとして民泊もあるのかなと。民宿を開業すれば地元にお金を落とせる。ある程度稼げるシステムをつくりたい。やはり続けるにはお金がいる。ボランティアばかりではできない。他の団体でやっているところに視察にも行っている。指定管理者制度で公設民営でやってるNPOや地域などあるが、うちは「未来会議」でやっていきたい。はっきりと自分たちでやるんだ、という勢いが、今私たちにはあるんです。



内山博文さん(若柵) / わかち未来会議(若柵地域を中心としたまちづくり団体)副代表、平成20年・21年葛西第二中の生徒が民泊



山本圭介さん / (株)農協観光首都圏支店教育旅行課(首都圏を中心とした数々の農村体験旅行などをコーディネートしている)

体験学習としての位置づけでの農業体験は増えています
「食育」が徳育・知育・体育の根幹として位置づけられ、その中でこういった農業体験を通じた学習が奨励されるよう

になった、という変化はあります。ただ、各行政によって農業体験に対する考え方が異なり、一概にはニーズが高まっているとはいえませんが、社会の「食」に対する関心が高まっているので、そういう面では全体的なニーズは高まってきているのではないのでしょうか。
また、農業体験を実際に行った学校も様子を伺っているというか、実際にやってみてどうだったか、その学習効果を確認している段階だと思えます。ただ、社会全体の関心は高まる傾向にあるので、実施する学校は増えていくと思います。最近はいくつかの農業体験を体験学習として取り入れるという学校が本当に

多いです。その中でも、今回小千谷市で実施させていただいたような農家民泊を伴う農村生活体験中心の教育旅行もあれば、登山や工芸体験など全く別の体験学習と一緒に農家民泊を伴わない農業体験を組み込む複合型の教育旅行もあります。その学校・学年によって教育旅行の中心に置くテーマが異なるため、どういう形の教育旅行が増えていくのかはその時代の流れや教育方針によって大きく変わってくると思います。
しかし、農業体験は、増えてきていることは間違いないです。私たちも、このような流れに少しでも協力し、地域振興・農業振興に貢献できればと思っています。



地域のひとつの試みとして

この民泊をやっていく

私たちの地域はもし地震がなかったとしたら30年後に迎えるはずの人口に、中越大震災でなってしまった。一瞬にして30年先の人口に進んでしまった。

そうすると我々は今、何をやらなければならぬか。何もやらないでこのまま行ってしまうたら30年後には、さらに

半分の人口になってしまうというのが我々の地域なんだ。だから何かをやらなければならない。

その一つとして民泊も一つの手段というか、民泊だけじゃなくてね。もっと総合的にかいろいろなものを複合的にやりながら交流人口を増やして定住者につなげていきたい。民泊で小千谷を訪れて、「牛」が気に入って東山に移り住むとか。そういうのが出てくればいい。来た子が保護者と「牛の角突き」を見にきたり。そういうのを通して東山にたくさん人が来て、将来的に人口減に歯止めをかけたり、欲を出せば人口が増えたりしてくれば。そのために民泊なんかを足がかりにしたい。だから、そういうことを我々の地域は試されているのかもしれないね。

民泊を通して、なかなか地域に活気が出たところまでとはいかないが、でも急に賑やかになってさ。村の人も反省会の時、久しぶりに賑やかになっていいねと言っていた。集落の中での連携も期待できる。1回目より2回目の受け入れは、そうとうリラックスしてやれた。最初は緊張もしたし、心配もした。

民泊は、今後もやらなきゃならないだろうね。みんながやれるように。進んで将来に向けて一歩でも前進することだろうね。これだけで終る話じゃないんだし。その先をしっかりと見据えていかないと。我々はひとつの試みとしてこの民泊をやっていくんだ、と思っています。



片岡哲太郎さん/
東山地区振興協議会会長、平成20年小松川第三中、21年八幡中の生徒が民泊



青木孝子校長/
江戸川区立葛西第二中学校校長
小千谷市での農家民泊を2回実施

やはり人とのふれあいですよ。 第二のふるさとを子どもたちに つくってあげたい

今までも3年生の時に修学旅行で2泊の農業体験をやっています。1泊はユースに泊まって、1泊は農家に泊

まっています。そこでも田植えなどの農業体験をさせたり。でも修学旅行を関西に変えたんです。やはり日本の文化的な遺産とか神社仏閣とかも見たいです。だから2年生で農家体験をやらせたいと思ったんです。できれば防災のことも学ばせたいと思ったので、昨年从小千谷で、2泊やらせたいと思ったのです。2泊するともっと気持ちが変わるだろうと思うんです。

やはり、人とのふれあいですよ。東京の子どもたちは、コンビニで何でも手に入る生活。お金を出せばなんでも買える。そんな中で自給自足の生活をなさってる農家のみなさんに、質素だけど温かい、先人の知恵も教えてもらいたい。こういうところに泊まらせるのと、子どもたちの顔つきが変わるんで

すよ。2泊すると、優しい表情になります。体験活動を見て回るとみんな田舎の少年少女みたいな顔してるんですよ。笑顔でここにこしています。



農家のみなさんがとてもかわいがってくださいますよ。今、田舎がなくなっている子どもたちが多いのです。行く田舎がないんです。核家族が多くて。そういうなかで、今回、おじいちゃんおばあちゃん

る「第二のふるさと」をつくらせたいのです。体験旅行が終わってからも結構付き合ってるんですよ。手紙のやり取りや、家族と一緒に夏休みに行く子もいるのです。

今後、そういう繋がりを持たせていただくというと思います。特に田舎のない子たちには。自然の中で生活すると、子どもも大人もそうですけど、心が穏やかになりますよ。

今年も小千谷を選んだのは震災からの復興にがんばっていらっしやるから。地域のみなさんのチームワークがとってもいいじゃないですか。それにまだまだ震災の爪あとが残っている。そういうのも子どもたちに見せてあげたい、聞かせてあげたい。そう思って私は小千谷に來させてもらっています。

普段よりちよつと気を使う感じだけで 楽しいし 全然苦じゃない

今年も、本当に楽しく受け入れをさせてもらいました。残念なのは、雨が続き思っていたことができなかったこと。3人の男の子を泊めたんですが、みんな礼儀正しく活発な子どもたち。みんな田舎がない子だそうで、すべてが珍しいらしく、「これなんですか」とか「すごい」とか、その反応が面白かったですね。また、何でもとにかく「おいしい、おいしい」と言ってくれる。うちの家族ともすぐに打ち解けて、特に一番下の子と仲良くなって、本当に夏の楽しい思い出になったと思います。

初めての時は勝手が分からず不安でしたが、やってみれば普段に多少ちよつと気を使う感じで、楽しいし全然苦じゃない。たまにはこういう新鮮な思いのできる日があったほうがいいと思います。もっと、こういう受け入れを地域全体で盛上げていければいいなって思います。そうすれば地域全体が元気になるような気がします。

この農家民泊受け入れは楽しいし、来年も来るようならまた受け入れたいと思っています。今回、雨でできなかった裏山へ昼食ピクニックを兼ねたジャガイモ掘りに行きたいですね。今回、ちよつと自動車に乗せて「ナマスウリ」と「かぼちゃ」の収穫に行きましたが、「ワーワー、キャーキャー」楽しそうだった光景が目に見えます。



谷内カツヨさん（岩沢山谷）／
平成20年小岩第五中、21年葛西第二中の生徒が民泊



とにかく いろんな繋がりがあるんだということ 子どもたちにも知ってもらいたい

「笹団子」や「ちまき」づくりをさせました。うちにきた二人と近所に泊まっていた男の子たちと二家族で。周りの人も話してただけで、こういうやり方もいいねと。1軒で全部いろんなメニューを考えようとすると大変だけど、事前に話し合って2・3軒でまとまって「じゃあ今日の午前中はうちで何をしよう」「明日は別の家の畑へ行ってジャガイモ掘りをしよう」とか。そうすれば1軒あたりの負担も軽くなるし。今年は3連休で対応がし易かったけど、これが平日が1日入ったりすると、休んでまでというのも大変だと思うので。2・3軒でやれば負担も軽くなるしいろんな事させられるのではと思いましたね。また、それやることによって地元や地域での繋がりが密になるから。普段そんなにか一緒にすることないんだけど、こういう時にね、一緒にやることも、それはそれで良かったかなと思っています。

最初の年泊まった子が学校の新聞部で、新聞を作った泊まった家全戸に送ってくれたんですよ。よくこれだけ覚えていて書いてくれました。保護者の方からも手紙がきたり。今でも年賀状のやり取りをしています。そういう交流をやりたいんです。今回来た子にも国内の米菓の3分の2は新潟県で作るとか、今はちよつと止まっているけど、山手線は小千谷の電気で動いているとか、川西のほう通っている送電線を見せて、柏崎の原発からあれで電気を送っているんだとか。とにかくいろんな繋がりがあるんだということを知ってもらいたい、そう思っています。



羽鳥勝弥さん（干三）／
平成19年清新第一中、20年小岩第五中、
21年葛西第二中の生徒が民泊

やっぱり都会の子は畑とか喜ぶんですよ



内山アイさん（若栢）／
平成20年・21年葛西第二中の生徒が民泊

この地域は何たってみなさん高齢者ばかりで。普段は子ども姿も少ないし、こうやって子どもたちが来てくれるのは村が活気付いていいですよ。中学生の受け入れはね、最初はとて心配でした。中学生だとまだ責任が持てないから、受け入れ側が責任を持たなければならぬので不安ですよ。でも昨年の経験があるから、今年のほうが楽しめたね。食事も今時の子どもさんを見てみると揚げ物とかがいいのか？なんて思うけどそうでもなくて。山菜なんかだめだろうと思っただけど、ゼンマイとかワラビとか「おいしい、おいしい」って食べましたよ。去年も採りたてのキュウリやナスも生で食べてみなさいって言ったら、結構食べるんですよ。

やっぱり都会の子は畑とか喜ぶんですよ。ジャガイモ掘りなんか特に喜ぶ。今年も中学生が来たら掘ろうと思っただけで残しておいたんです。事前に子どもたちから手紙もらって、返事書いてくれてことで、書くの苦手なんだけど「あんたたちが来るにはジャガイモができてから掘りましょうね」って書いて出したんです。でも残念ながら雨でね。最後の日、公民館で竹で笛作ったり、草履つくったりしたんです。古い民具を見に行ったり。でもどうしてもジャガイモが掘りたいって。だからカッパ着て、雨が降るのに畑まで行って風は吹くし雨は降るしだけど、掘るとさぐさぐでるから、そりゃもう喜んじゃって。かごいっぱいってきましたよ。そういう農家の普通のこと、とても楽しいみたいです。

もっぴとつの流れ

平成20年から農林水産省が農村集落の活性化のため、文部科学省・総務省と連携し「ふるさと子ども夢学校」という事業を始めました。

これは、全国の小学5年生を農村に泊めよう、命の大切さや人とのふれあいを経験してもらおうという事業で、3日から1週間程度、農村に泊めたり田舎へ連れて行ったりするものです。

市内でも現在、協議会づくりなどを進めています。今までの中学生の教育体験旅行の受け入れを踏まえて、今後、小学校5年生を受け入れていく準備を来年ころから進めていきたいと考えています。



自分の子どもたちがお盆に来るのと同じ感覚で



関吉弘さん（塩殿）／
平成20年小岩第五中、21年葛西第二中の生徒が民泊

楽しかったですよ。来た子どもたちも楽しがればさ。子どもたちの受け入れも私はそんなに心配なんかしなかったんだけどね。うちのおかあちゃんは、シーツやら布団やらそういうことをちよつと心配してたけど。でも大変じゃなかったね。そのまま自分の子どもたちがお盆に来るのと同じ感覚でさ。そんな調子で接してるから。特別気を使うでもなく。ご飯も自分たちでよそって、みんな運ばしてさ。「次、何しますか」なんて言われるから、「タマネギとって」とか、「ジャガイモ持ってきて」とか。他人のうちだからさ、勝手にできないだろうと。「冷蔵庫も勝手に使っちゃダメ」と。

クラインガルテンが近くだから連れてって、ツバメの巣を見せたりね。ラウベのみなさんも気軽に声をかけてくれたし。「あいちちゃんの店」で売り子をやったりね。地域で受け入れたのが3軒で少なくて残念だった。ただまあ、受ける気持ちにはあっても色々家庭の事情があったりしてね。受け入れた家族と打ち解けられなくて、子どもたちだけで行動すると面白くないっていうのもあって、去年受け入れをしたけど、今年はやらない家もあった。子どもたちも色々だからね。次のときは、地域のみんなでクラインガルテンで花火とかバーベキューとか一緒にやれるといいかな。そんな話も出てましたよ。



受け入れるほうも楽しいんだということも分かってもらうと一番いい

最初、多少心配はしていたんだけど。初めての子どもたちだし。終ってみて「楽しくてよかったね」というのが一番の印象。子どもが少ないからね。楽しいわ。うちは男の子3人の受け入れだったんだけどね。帰れば手紙くれたりね。私も写真を撮って3人めいめに送ってあげたんですよ。そしてまたまた来た子どもたち。今年来た子どもたちは田植えやったら送ってやるかと思ってる。今年来た子どもたちは田植えやったら送ってやるかと思ってる。今年来た子どもたちは田植えやったら送ってやるかと思ってる。

今、週に一回くらいずつうちのホームページに稲の成長状況を見せて見てもらえようようにしてあります。体験旅行の受け入れも、こうきなことしなくなってきたいいんだわ。本当に「普通の生活」「普通のこと」をやれば、都会から来た子どもたちはそれで「ほうっ」と言うんだわ。みんな新鮮に見えるからね。俺たちは気づかないんだもん。それが当たり前で。受け入れ家庭があると2・3軒、近くにあってらね。一晩でも集まったりしていろいろなことできたんだけど。子どもたちにも、せっかくだからいい思い出をつくらせてあげたい。楽しいんだということ周りのみんなから分かかってもらおうと一番いいんだけどね。来年もできればやりたいね。



関芳之さん(塩谷) / 平成21年八幡中の生徒が民泊



これから目指すもの

■ 地域に協議会を

これからはある程度、段階に分かれると考えています。受け入れることを一年のイベントとして考えている農家もありますし、受けるんだから年3回、5回と受け入れたい、という農家もあります。どうせなら10回くらいやればいいという農家もあります。多くの人数がきたときに調整が困難になります。今後は、いろいろな地域やグループを組みあわせる必要が出てくるでしょう。

現在は各地区や町内で受け入れをしていますが、今後は小さなグループをつくり、受け入れの協議会のようなものを地域に置きたいと考えています。その中で受け入れがありますときに3軒集めたり5軒集めたりといった調整を行っていただきたいと考えています。さらに、将来的には小学生も受け入れられるような協議会を組織し、市全体で受け入れられるようになっていこう、というのが目標の一つでもあります。



■ 地域の活性化に向けて

市では、受け入れを「やりたい」という方や、集落があれば今後も対応しますし、説明にも伺います。この事業をもっといろいろな方から行ってもらいたいと思います。ただ、子どもたちの送り迎えやアレルギー、衛生の問題など、クリアしなければならぬことも出てきますので、講習会などを受ける必要もあります。

来年度もすでに首都圏の中学校が何校か、小千谷での農家民泊を予定しています。この事業が成長し、「さほど特別なことをしなくてもいいん



だ」ということを実感でき、実際に受け入れた子どもたちを相手にしている高齢者やお母さん方の収入になれば一番良いと思います。また、事業が派生して民泊をやるうという話も出てくると思います。今は交流が第一ですが、将来的には地域の活性化につながり、この事業がそれぞれの地区の課題を解決するためのひとつの要素・契機づけになつてほしいと考えています。そして「また、来るからね」そう言ってもらえる「おぢやのまちづくり」を目指したいものです。

■ 教育体験旅行・民泊受け入れなどの問い合わせ／農林課 農村支援係 ☎ 83・3510

羽鳥二三子さんの統計標語 全国で入選



総務省では、10月18日を「統計の日」と定め、統計調査への協力を呼びかけるポスターを作成しています。そのポスターに載せる統計標語の公募が全国で行われ、3923点の応募の中から特選1点、佳作5点が選ばれました。この中で、小千谷市統計調査員の羽鳥二三子さん（千谷川二丁目）が応募した標語が、佳作に入選しました。

羽鳥さんの入選作品『統計は、未来を見つめる確かな目』には、永年統計調査に携わっている中で、調査の意義を理解していただき、調査への協力をお願いしたい気持ちを含められたそうです。羽鳥さんは「いろいろな統計は住みよい社会を作るための基盤と考えています。来年は国勢調査の年です。どうか調査にご協力いただきますようお願いします」とお話しいただきました。

■ 問い合わせ／総務課情報統計係
83・3506

数字で見る小千谷市の姿 ⑥ 選挙

今回は、小千谷市の選挙執行状況についてご紹介します。

選挙別投票率

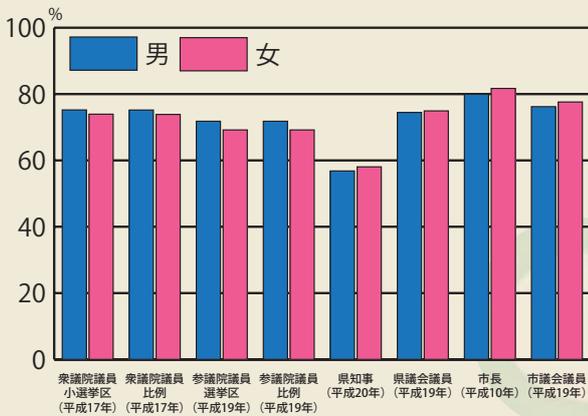
左のグラフ①は、各選挙における最新の投票率を男女別にまとめたものです。投票率（男女の合計）が高い順に、市長選挙（80・83%）、市議会議員選挙（76・93%）、県議会議員選挙（74・70%）となっていて、地方選挙の中でも最も身近な市レベルの選挙が上位を占めています。男女別の投票率を見ると、地方選挙

は女性の方が高いのに比べ、国政選挙では男性の方が高くなっています。

投票率の推移など

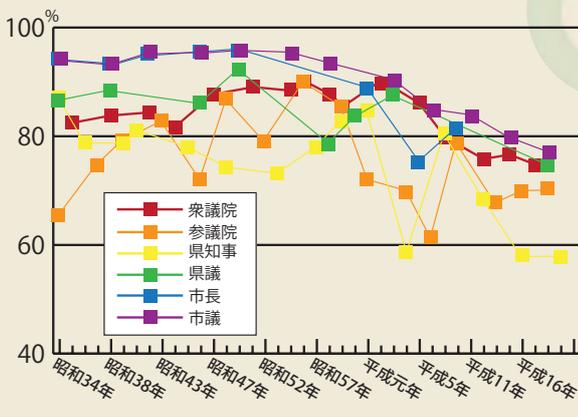
グラフ②は、昭和34年以降に実施された、選挙における投票率の推移を示したものです。平成15年12月に、従来の不在者投票のほかに、手続きを簡素化した期日前投票制度が設けられました。投票率は全体的に低下していますが、グラフ③のように投票者数における期日前投票者数の割合は年々増加しています。導

選挙別投票率



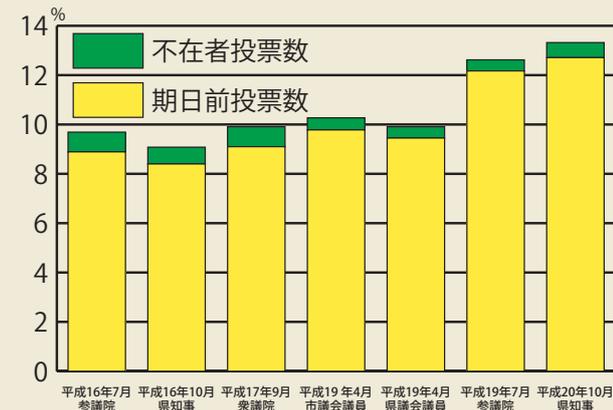
(グラフ①)

選挙別投票率の推移



(グラフ②)

投票者数における期日前と不在者投票者数割合



(グラフ③)

■ 問い合わせ／総務課情報統計係
83・3506

選挙は、私たちの代弁者を選ぶことができる唯一の機会です。政治が私たちの生活に直接影響することを認識し、進んで大切な一票を投票しましょう。

選挙は、初めての参議院議員選挙（平成16年）では8・89%でしたが、昨年行われた県知事選挙では、12・71%が期日前投票によるものでした。期日前投票制度が、認知されてきたことがわかります。

選挙は、私たちの代弁者を選ぶことができる唯一の機会です。政治が私たちの生活に直接影響することを認識し、進んで大切な一票を投票しましょう。



今年2月、この欄で東洋経済新報社が発表した2008年版全国住みよいま市ランキングについてお話ししましたが、このたび、2009年版の調査結果が発表されました。これによると、東京23区を含む全国806市・区の中で、小千谷市は住みよさ45位となりました。もちろん、わが市は新潟県内20市中のトップで、2番目は長岡市の130位です。

たいへん素晴らしい評価をいただき光栄に思いますが、市民のみなさんからは、「一体何を根拠にした評価なのか」との質問をたびたび受けますので、今回はその説明をいたします。

評価はすべて統計的な数値の計算によって行われています。「住みよさ」の中には更に、病院や診療所のベッド数、老人介護施設の定員数などの「安心度」、小売業年間販売額、大型小売店舗面積の「利便度」、下水道の普及率や公園の面積などの「快適度」、市の歳入・歳出内容評価などの「富裕度」、住宅の床面積や持ち家世帯比率などの「住居水準充実度」に分けられ、全14項目にわたり、それぞれ市民一人当たりについて計算され、比較されています。どれも、市民のみなさんにとって、普段気づかれることが少ない内容

かも知れませんが、評価は高かったようです。

これからも、より住みよいま市を目指して努力を重ねなければなりません。小千谷が本当の意味で住みよいま市になるために必要なのは、私たち市民の心の豊かさではないでしょうか。これは数字などで表すことが出来るものではありませんが、わが小千谷市は、その点でも高い評価をいただけるのではないかと思っています。

(谷井 靖夫)



教育体験旅行の受け入れをした農家のみなさんの温かさ、ランキングには現れない「おぢやの魅力」のひとつかも知れませんね

作ってみてね！この料理 

「そうめんの冷製和風トマトパスタ風」

<材料> 4人分

- そうめん(乾) 300g
- トマト 2個
- 手作りめんつゆ 180cc
- オリーブ油 大さじ2
- こしょう 少々
- 青じそ(せん切り) 20枚
- 卵(温泉卵) 4個

📌今月のワンポイント

これも作ってみよう！「手作りめんつゆ」

<材料>

- ・しょうゆ1/2杯
- ・みりん1/2杯
- ・水1と3/4杯
- ・削りカツオ15g
- ・昆布5cm

<作り方>

- ①全材料を鍋に入れ、中火から弱火で5分ほどかけて煮立たせ、火を消す。
- ②こして、氷水などで手早く冷ます。



■献立・調理/小千谷市食生活改善推進委員

<作り方>

- ①トマトは湯むきして横半分に切り、ざっと種を除き、1cm角に切る。ボウルに入れ、手作りめんつゆ、オリーブ油、こしょうを加え、混ぜて冷やす。
- ②そうめんはゆでて冷水にとる。
- ③そうめんに①の量を合わせてからめ、器に盛って残りの①をかけ、温泉卵と青じそを盛る。

■栄養価(1人分)

エネルギー 434kcal▷たんぱく質 15.6g▷脂質 13.5g▷塩分 1.5g



塩殿小学校で写真教室

塩殿小学校では、この春から「ふれあいの里」のラウベを利用している杉木杉さん（社）日本写真協会会員）を先生としてお迎えして「探検写真クラブ」の活動をとおして交流を行っています。7月16日（木）、杉木さんは、児童が撮った写真を一枚一枚見ながら、撮ったときの様子や気持ちを児童たちと話し合い、児童たちはその写真の良さや工夫した点などを学習しました。

直江兼継の先祖探求ツアー

8月2日（日）、真人北山地区で、まっと活性化委員会主催の「直江兼継の先祖探求ツアー」が行われました。当日は市内外から47人が参加し、今話題の直江兼継の先祖、樋口次郎兼光が住んでいたと言われる地域を、地元ガイドの説明を受けながら散策しました。散策道は地元住民の協力で整備されたもので、参加者は歩きながら遠く戦国の世に思いを馳せているようでした。



県展～小千谷展～

県下の美術の祭典「第64回県展」の小千谷展が、7月15日（水）～22日（水）総合体育館で開催されました。

巡回県展が当市で開催されたのは5年ぶりです。会場には、書道、日本画など7部門466点の作品が展示され、期間中約4,000人の観覧者で賑わいました。また、各部門の県内のトップ指導者による特別鑑賞講座も行われ、作品の解説にたくさんの人が聞き入りました。

みんなで楽しく「なかよしコンサート」

7月18日（土）、市立保育園が合同で主催する、恒例の「なかよしコンサート」が、サンラックおぢやで開催されました。今回は、中越地区を中心に活動する4人のグループ「すいかのたね」が2回の公演を行い、歌や演奏、パネルシアターを披露したり、みんなで「すいかのたね体操」などをしたりして、集まったおおぜいの子どもたちや保護者を楽しませてくれました。



あなたのお店や事業をPRしませんか？



広告募集中

市報おぢや・市ホームページでは広告を募集しています。「市報おぢや」の広告掲載料はこの大きさ（縦45.5mm×横82mm）で1枠1回15,000円です。詳しくはお問い合わせください。

■問い合わせ／企画財政課広報広聴係 電話83-3507

SUNSHINE 英会話
 電話 83-1004

小千谷校
 2-7-29 和光造園ビル2
 TEL (0258) 83-1004

JUSCO ● ●ガスト
 小千谷インター ● ●至英園
 萬屋書店 ● ●至小千谷市街
 ハラシ ● ●至スーパー
 小千谷校 ● ●

有料広告掲載欄です



慈眼寺での豊年獅子舞



園児たちも巫女翁の踊りを楽しみました

夏の到来 二荒さまのおまつり賑わう

7月13日(月)～15日(水)まで、二荒神社の祭礼が行われました。今年は雨に降られることもなく、天候に恵まれ、まつりを楽しむみなさんで賑わいました。

このお祭りに欠かせない「巫女翁」や伝統の「豊年獅子舞」も各所で演じられたほか、本町おまつり広場では、特設ステージでの幼稚園児の遊戯や、よさこいおどりなど多彩な出し物が披露されました。



威勢のいい掛け声でバナナの叩き売り

真夏にひんやり～「雪まつり in 池ヶ原」

池ヶ原で8月2日(日)雪まつりが開催されました。会場には冬から保存している雪山が出現。来場者は雪山に上ったり、そりで滑ったりして楽しみました。そのほか、雪山宝探しやスイカ割り、ステージ発表などの催しがあったほか、子どもたちに大人気のカブトムシの抽選会などが行われました。少し天気が崩れたもののたくさんの人が夏の雪を楽しんでいました。



夏休み企画展

楽集館では夏休み企画展として「小千谷の自然、その宝物をさぐる」を8月31日(月)まで開催しています。化石をはじめ昆虫の標本などを展示した、夏休みにぴったりの企画展です。また関連企画として「信濃川石ころ探検隊」や「信濃川虫とり探検隊」といった自然体験教室も行われました。



楽集館にはたくさんさんの標本などが展示中です



信濃川虫とり探検隊

乳幼児健診、予防接種の実施日には、先着順に番号札をお渡しします。

■番号札配布開始時間 午前中に開催の場合：午前8時30分～、午後で開催の場合：正午～

胸部レントゲン検査・特定健康診査日程表

対象町内	月日	受付時間	会場
山谷、坪野(下)	9.14(月)	9:00～10:30	山谷交流センター
時水、藪川、両新田、若葉2・3丁目		13:00～14:30	城山開発センター
稗生・横渡	9.15(火)	9:15～10:30	稗生集落開発センター
浦柄		13:00～14:00	浦柄公会堂
木津町	9.16(水)	9:00～11:00	木津公会堂
山寺、元中子、信濃町、旭町、木津団地、津山町、東栄		13:30～14:30	東小千谷体育センター
	9.17(木)	9:00～11:00	
		13:00～14:30	
		※14:15～14:30は胸部レントゲン男性専用時間	
	9.18(金)	9:00～11:00	
		13:00～14:30	
		※14:15～14:30は胸部レントゲン女性専用時間	

胸部レントゲン検査（結核定期健康診断・肺がん検診）

結核、肺がんの早期発見のため、職場や病院などで検査を受ける機会のない方は受診しましょう。65歳以上は感染症法により受診が義務付けられています。年1回は受診してください。

- 対象／65歳以上は結核定期健康診断・肺がん検診、40～64歳は肺がん検診
- 料金／200円(70歳以上無料)



特定健康診査

生活習慣病予防のため、年1回は受けましょう。

- 対象／16歳以上
- 検査項目／計測・尿検査・問診・血圧測定・診察・血液検査・心電図（医師が必要と判断した方のみ）・眼底検査（医師が必要と判断した方のみ）・生活機能評価(65歳以上の方)
- 料金／1,000円（75歳以上無料）※40歳～74歳の社会保険などで扶養になっている方は特定健診受診券に記載されている額が必要です。
- 持ち物／▽受診通知書・健康手帳（お持ちの方）・料金▽40歳～74歳：特定健康診査受診券と保険証▽75歳以上：後期高齢者医療の保険証

肝炎ウイルス検査

- 対象／特定健診を受診する方のうち希望する方（これまでに検査したことのない方）
- 料金／500円（70歳以上無料）
- 社会保険などで扶養になっている40歳～74歳の方へ／職場や加入している医療保険から届く特定健診受診券に「市町村で受診可能」または「集合B契約」と記載されている場合は、市の特定健診を受診できます。受診を希望する方は必ず特定健診受診券と保険証をお持ちください。どちらか一方でも忘れた場合は受診できません。

乳幼児の健康診査
会場は健康センターです

4か月児健康診査

- 日時／9月9日(火)午後1時～1時10分受付
- 対象／平成21年4月生まれ
- 持ち物／バスタオル、母子健康手帳、替え用のオムツ
- その他／離乳食講習会を同時実施

10か月児健康診査

- 日時／9月8日(火)午後1時～1時10分受付
- 対象／平成20年10月生まれ
- 持ち物／母子健康手帳、替え用のオムツ
- その他／離乳食後期の講習会を同時実施

1歳6か月児健康診査

- 日時／9月30日(火)午後1時～1時20分受付
- 対象／平成20年2月生まれ
- 持ち物／母子健康手帳
- その他／歯科検診を同時に行いますので、歯をみがいて来てください。

2歳児歯科検診

- 日時／9月29日(火)午前9時～9時10分受付
- 対象／平成19年8月生まれ
- 持ち物／母子健康手帳、お子さんの仕上げみがき用ハブラシ
- その他／幼児食講習会と歯科衛生士によるブラッシング指導があります。歯をみがいて来てください。

3歳児健康診査

- 日時／9月3日(木)午後1時～1時20分受付
- 対象／平成18年8月生まれ
- 持ち物／目と耳のアンケート、生活習慣アンケート、採尿した容器、母子健康手帳
- その他／歯科検診も同時に行います。歯をみがいて来てください。

*発熱など、普段と違う症状のあるお子さんは、翌月の健診日においでください。

健康 の情報

問い合わせ・
申し込みは
健康センターへ
☎ 83-3640



9月の予定

胃がん・大腸がん検診日程表

(申込数により受付時間が変更になる場合があります)

対象町内	月日	受付時間	会場
時水、藪川、両新田、 若葉2・3丁目	9.27(日)	8:15～11:00	城山開発センター
土川、若葉1丁目	9.28(月)	8:00～11:00	市民会館
小栗田	9.29(火)	8:15～11:00	小栗田多目的センター
桜町(上)		7:45～11:00	西部開発センター
東山地区	9.30(水)	8:30～10:30	東山住民センター

胃がん・大腸がん検診

- 対象/40歳以上の方
- 料金/▽胃がん検診1,000円▽大腸がん検診500円※70歳以上の方は無料

秋期ポリオ(小児マヒ)ワクチン投与日程表

対象地区	月日	受付時間	会場
東小千谷・横浦地区	9.11(金)	13:30～14:00	健康センター
城川地区	9.15(火)		
片貝・山辺・岩沢地区	9.16(水)		
西小千谷地区	9.17(木)		
真人・東山・川井 吉谷・千田地区	9.18(金)		
城川地区	9.25(金)		

指定された日で都合が悪い場合は、別の日で受けることができます。
※谷内は吉谷地区、坪野(下)は城川地区になります。

お手元の「予防接種と子どもの健康」「乳幼児健康診査、予防接種予診票のつづり」をよく読み、予診票に記入して母子手帳と一緒に会場にお持ちください。

- 対象者/平成20年6月13日～平成21年6月11日生まれの乳幼児※生後90か月未満でまだ2回の投与を受けていない幼児も、受けることができます。
- 問い合わせ/健康センター予防係

各種検診のご案内

通知された日時、会場で受診できない方は、都合のよい会場で受けることができますので健康センターまでご連絡ください。

また、受診通知書が届いていない方で受診を希望する方や申し込みの取り消しをする方も健康センターまでご連絡ください。検診の対象年齢は平成22年4月1日現在の満年齢を基準としています。

子宮がん検診・乳がん検診日程表

(40歳以上同時実施・20～38歳子宮がん検診のみ)

月日	受付時間	会場
9.7(月)	13:00～13:10	小千谷総合病院
9.14(月)	14:00～14:10	
9.28(月)	※子宮がん検診のみ受診する方は、 14:00～14:10受付	
9.4(金)	12:30～12:50	魚沼病院
9.7(月)	※子宮がん検診のみ受診する方は、	
9.14(月)	14:15～14:30受付	
9.18(金)		
9.25(金)		

1年おきの検診です。対象年齢で申し込んだ方は、必ず個人通知が届いてから受診してください。指定された日が都合の悪い場合は、申し込んだ医療機関の検診日の中で、受診日を変更してください。



子宮がん検診

- 対象/20歳以上の女性で、平成22年4月1日までに偶数年齢になる方(隔年検診)
- 料金/1,000円、70歳以上無料

乳がん検診

- 対象/40歳以上の女性で、平成22年4月1日までに偶数年齢になる方(隔年検診)
- 料金/▽40～48歳1,400円(X線写真を4枚撮影)▽50～68歳1,000円(X線写真を2枚撮影)▽70歳以上無料(X線写真を2枚撮影)

- 対象年齢で申し込みをしなかった方で、検診を希望する方は、健康センターへご連絡ください。9～11月に実施する予定です。
- 次の方は集団検診が受けられません。引き続き病院で診療を受けてください。
▽手術で子宮や乳房を摘出した方▽豊胸手術を受けた方▽子宮や乳房の病気で通院中の方▽妊娠中の方▽ペースメーカー装着中の方

女性の健康相談会

魚沼地域振興局健康福祉部（魚沼保健所）では産婦人科医による専門相談会を行ないます。

- 対象／思春期から更年期の女性とその家族で、次のような健康に関する相談のある方
 - ①妊娠、避妊、家族計画などに関する事
 - ②不妊に関する事
 - ③婦人科疾患、更年期障害などに関する事
 - ④性感染症などに関する事
 - ⑤その他、女性の心身の健康に関する全般的な事
- 日時／9月7日(月)午後2時～4時
- 会場／堀之内社会福祉センター（魚沼市堀之内4327番地1）
- 相談担当医師／鈴木孝明（県立小出病院副院長）
- 申込・問い合わせ／8月31日(月)までに魚沼地域振興局健康福祉部（魚沼保健所）地域保健課 ☎025-792-8612

心の健康相談

心が沈みがち、元気が出ない、眠れない、アルコール依存、家庭内暴力などでお困りの方の相談を精神科医師がお受けします。

- 日時／9月10日(休)午後1時30分～3時
- 会場／健康センター
- 申込締切／9月9日(水)
- 申込・問い合わせ／健康センター保健係 ☎83-3640



お年寄りの心の健康相談会

もの忘れが気になる、やる気が出ない、不眠などでお困りの方やその家族の相談を、精神科医師がお受けします。会場まで来ることが難しい場合は、訪問相談も行っています。相談は無料です。

- 日時／8月27日(休)午後1時30分～3時30分
- 会場／健康センター
- 申込・問い合わせ／8月25日(水)までに、保健福祉課高齢福祉係 ☎83-4060

AAグループミーティング

アルコール依存を正しく理解し、互いに話し合うことで断酒継続をしています。

- 日時／毎週水・金曜日午後7時30分～9時
- 会場／健康センター
- 対象者／アルコール依存やお酒で体調をこわしている方、家族、友人
- 問い合わせ／健康センター保健係 ☎83-3640

子どもの医療費の通院費の助成対象者を拡大

子どもの医療費助成制度の通院費助成は、小学校就学前まで対象ですが、9月1日から3人以上のお子さんと同居（同一世帯）している保護者に、小学3年生まで助成を拡大します。

小学1年生から3年生の児童の保護者に申請のお知らせを送付しました。（すでに入院の受給者証をお持ちで、3人以上のお子さんと同居の方・他の助成制度を受給している方は除きます）

次に該当する方は、子どもの医療費助成の手続きを行ってください。

- ▽3人以上のお子さんと同居しているが、子どもの医療費助成制度の申請をしていない方
- ▽学生または施設に入所のため同居していない方を含めるとお子さんが3人以上になる方
- 所得制限について：平成21年度の所得制限限度額（児童手当特例給付限度額）を超えていると9月1日からの助成は受けられません。転入などにより小千谷市で所得額を確認できない方は、平成21年度所得証明書の提出をお願いすることがあります。
- 持ち物／お子さんの保険証・印鑑・多子世帯申出書・学生または施設に入所のため同居していないお子さんを含む場合は学生証や在学証明書などの確認できる書類（写し可）
- 申請期限／8月31日(月)※申請の翌月から該当になります。年の途中で該当したときは、早めに申請してください。
- 申請・問い合わせ／健康センター予防係 ☎83-3640

こつ そしょうしょう 骨粗鬆症検診

申し込みがまだで受診を希望される方は、8月25日(水)までに健康センターへご連絡ください。今年度すでに医療機関などで受けられた方、治療中の方は対象外です。検診申込を取り消す方も健康センターにご連絡ください。

- 日時／9月1日(火)・2日(水)両日とも午前9時～11時・午後1時～3時
- 会場／健康センター
- 対象／平成21年度内に次の年齢になる女性
 - ▽40歳（昭和44年4月2日～45年4月1日生）
 - ▽45歳（昭和39年4月2日～40年4月1日生）
 - ▽50歳（昭和34年4月2日～35年4月1日生）
 - ▽55歳（昭和29年4月2日～30年4月1日生）
 - ▽60歳（昭和24年4月2日～25年4月1日生）
 - ▽65歳（昭和19年4月2日～20年4月1日生）
 - ▽70歳（昭和14年4月2日～15年4月1日生）
- 料金／700円（70歳以上無料）
- 検査方法／前腕のレントゲン検査
- 問い合わせ／健康センター保健係 ☎83-3640

第25回利雪・遊雪・克雪フェア開催

真夏の雪を楽しんでみませんか。今年も楽しいイベントがたくさんあります。毎回大好評の雪山広場やビンゴ大会で、暑さを忘れて楽しもう！

■日時／8月22日(土)午前10時30分～午後3時30分

■会場／サンプラザ駐車場

■内容／●雪山たからさがし(午前10時40分～) ●雪山ステージ：こどもお囃子(午後1時20分～)、大ビンゴ大会(午後2時40分～)ほか ●雪冷熱エネルギー住宅見学会 ●関連団体展示コーナー ●喫茶コーナー(かき氷、焼きそば、生ビールほか) ●ゲームコーナーなど

※会場付近には駐車場がありません。市役所駐車場をご利用ください。

■問い合わせ／利雪・遊雪・克雪フェア実行委員会(建設課内) ☎83-3514



「雪冷熱エネルギー住宅見学会」参加者募集

市内の雪冷熱エネルギー住宅をバスで見学します。雪をエネルギーとして利用する、冷房や雪室のある暮らしを見学してみませんか？

この住宅は環境省が主催する「ストップ温暖化『一村一品』大作戦全国大会2009」において金賞を受賞しています。

■日時／8月22日(土)午前9時30分～(1時間程度)

■集合場所／サンプラザ正面玄関前(サンプラ通り側)

■募集人数／25人

■参加無料

■応募締切／8月18日(火)(当日受付も可、出発時刻までに集合場所にお越しください)

■申込・問い合わせ／利雪・遊雪・克雪フェア実行委員会(建設課内) ☎83-3514



県障受給者証を発送

9月からの県障受給者証を8月10日(月)に郵送しました。受給者証が届かない場合は、お問い合わせください。

また、社会保険の健康保険証(オレンジ色)をお持ちの方は、全国健康保険協会の健康保険証(水色)へ切り替えが行われています。新しい健康保険証(水色)が届きましたら、保険証・受給者証・印鑑をお持ちのうえ、県障受給者証の変更の届出をお願いします。

■問い合わせ／社会福祉課福祉係 ☎83-3517

職員募集に関するお詫びと訂正

7月27日(月)までに総務課職員係でお渡しした職員募集の要項と、同日までに市のホームページに掲載していた職員募集の要項のうち、技能労務職(ガス水道局工務員)の募集要項に、「大卒及び大卒見込の方は受験できない」という記載がありましたが、誤りであり受験可能ですので、お詫びして訂正します。

受験希望の方は8月21日(金)までに申し込みをしてください。

なお、現在のホームページには訂正済みの要項を掲載してあります。

■問い合わせ／総務課職員係 ☎83-3005

飲酒運転は絶対に禁止！

市民生活課 ☎83-3509

これからお盆やお祭りで飲酒をする機会が増えますが、飲酒後は絶対に車の運転はやめましょう。

平成21年6月に道路交通法が改正され、飲酒運転により即免許取消しになる場合があります。

「飲んだら乗らない 乗るなら飲まない 運転する人には飲ませない」を徹底し、飲酒運転は絶対にやめましょう。

■問い合わせ／市民生活課生活安全係

パーキンソン病患者と家族のつどい

健康センター ☎83-3640

体操などで体を動かしたり、言語聴覚士を交えて病気についての情報交換などを行ないます。

■対象者／パーキンソン病と診断された方・その家族

■日時／9月10日(土)午後1時30分～3時30分

■会場／サンラックおぢや

■申込／魚沼地域振興局健康福祉部地域保健課 ☎025-792-8614

うぶごえ教室

■日時／9月17日(木)午前9時～9時10分受付

■対象／妊婦、1歳未満のこどもの母親など

■会場／健康センター

■内容／母乳育児と妊娠中・産後の過ごし方などの講話、料理実習、会食交流会

■持ち物／母子健康手帳、エプロン、三角布、お子さんの離乳食

■無料

■申込／9月14日(月)まで。お子さん、ご夫婦一緒でも参加できます。

■申込・問い合わせ／健康センター保健係 ☎83-3640

講座受講生募集

勤労青少年ホーム ☎ 82-8510

- 対象／市内在住または在勤でおおむね30歳以下の方（定員に満たない場合はこの限りではありません）
- 申込締切／定員まで随時受付
- その他／受講料（材料費など）のほか、ホーム利用登録料1,000円が必要です（今年度登録済の方は不要）
- 受付・問い合わせ／平日午前8時30分～午後9時、勤労青少年ホームまで

きもの着付け講座

「自分できものを着られたら、自分で着せられたら」と思ったことはありませんか？着付けの基礎を講習します。

- 日時／9月11日～10月30日（毎週金曜日、計8回）午後7時～9時
- 会場／勤労青少年ホーム1階和室
- 講師／瀬沼セツさん（明星学院着もの着付け教授）
- 内容／きもの着付けの基礎
- 定員／15人
- 受講料／2,500円（8回分）
- 持ち物／着物着付一式（詳しくはお問い合わせください）

ダイエットお弁当講座

手作りお弁当でらくらくダイエット！からだと家計にやさしいお弁当講座です。

- 日時／9月16日（水）・10月21日（水）午後6時30分～9時30分
- 会場／勤労青少年ホーム1階料理講習室
- 講師／川井厚子さん
- 内容／ダイエットメニューを中心とした低カロリーお弁当づくり
- 定員／15人
- 材料費／800円（2回分）
- 持ち物／エプロン、容量が700cc程度の弁当箱

出演者募集

「市民芸能まつり」「市民音楽祭」の出演者を募集します。誰でも出演できます。日ごろの練習の成果を大きなステージで発表しませんか？

市民芸能まつり

- 開催日／10月25日（日）
- 会場／市民会館
- 対象／市内で郷土芸能伝承活動・芸能活動（民謡・踊り・舞踊・民謡・大正琴ほか）を行っているアマチュア団体・個人

市民音楽祭

- 開催日／11月14日（土）・15日（日）
- 会場／市民会館
- 対象／市内で音楽活動（コーラス・フォーク・ジャズ・ロックほか）を行っているアマチュア団体・個人

- 申込／出演申込書に必要事項を記入し、8月24日（月）までに市民会館へ（郵送・ファックス可、出演申込書は市民会館にあります）
- 問い合わせ／社会教育課社会教育係 ☎82-9111 ☎82-9112

手作り絵本講座

自分の思い出やお話を絵本にしてみませんか。

- 日時／9月20日（日）、26日（土）、10月3日（土）午後2時～4時
- 会場／市民会館2階中会議室
- 講師／須田典子さん
- 内容／①お話と絵を描く②のり付けと製本③表紙作成
- 材料費／950円
- 定員／20人
- 対象／どなたでも参加できます。小学生は保護者同伴でお願いします。
- 申込・問い合わせ／9月8日（火）までに図書館へ ☎82-2724

秋のこみちウォーク

おぢやクラインガルテンふれあいの里の地元「こみちの会」が整備した山本山周辺の道と一緒に歩いて、自然の息吹を感じましょう。途中、採取したきのこで「きのこ汁」をつくり、お昼を食べます。小雨でも行います。

- 日時／9月6日（日）午前9時～午後2時30分（片道1時間30分程度のウォーク）
- 集合場所／ふれあいの里管理棟前
- 参加費／大人500円、子ども300円
- 申込締切／8月28日（金）
- 服装・持物／歩ける格好、昼食、水筒、軍手など
- 申込・問い合わせ／おぢやクラインガルテンふれあいの里管理組合 ☎83-1722



宝くじ助成金でお祭り用品を購入（千谷町内会）

千谷町内会では、（財）自治総合センターの宝くじ助成金を利用して、コミュニティ活動の活性化のため、子供神輿などのお祭り用品を購入しました。

■問い合わせ／社会教育課社会教育係 ☎82・9111

お知らせ

Information

小千谷市役所 ☎ 83-3511 (代)
http://www.city.ojiya.niiga.jp/

ちぢみの里の利用券が当たる
広報クイズ

解答をはがきでお送りください。
正解者の中から、抽選で3人に
ちぢみの里の利用券を贈呈します。
市報おぢやの感想もあると担当は
うれしいのですが…

問題 東洋経済新報社が発表した
2009年版全国住みよき市ランキング
調査結果が発表されました。

さて、東京23区を含む全国806市・
区の中で、小千谷市の住みよさは何位
だったでしょうか。

①45位 ②55位 ③65位

(ヒントは11ページ)

応募先 〒947-8501小千谷市役所
企画財政課広報広聴係あて(住所不要)

締切 8月25日(火)(当日消印有効)
7月号の答えは、②7事業でした。抽
選の結果次の方が当選しました。

中野キマさん、権田恵子さん
田中和子さん

人口と世帯数 (7月31日現在)

男	19,497人	前月比	- 15	出生	24人
女	20,064人	前月比	- 11	死亡	30人
合計	39,561人	前月比	- 26	転入	44人
世帯数	12,544世帯	前月比	- 4	転出	64人

事故発生状況 (7月31日現在)

	21年7月まで	20年7月まで
件数	72件	80件
死者	3人	2人
傷者	87人	99人

消防本部出動状況 (7月31日現在)

	21年7月まで	20年7月まで
火災	24件	17件
救急	782件	774件

気象データ7月

	21年7月	過去10年の平均
平均気温	23.1℃	24.7℃
最高気温	32.0℃	34.8℃
最低気温	18.5℃	17.4℃
降水量月計	264.5mm	240.6mm

小千谷地域消防本部速報値 (観測地: 元中子)

「ときめきめぐりあい会員」を募集します

素敵な出会いをサポートする「ときめきめぐりあい推進事業」が始まります。結婚したいと思っても、なかなか出会いの機会のない方、「ときめきめぐりあい会員」になって、素敵なパートナーを探しましょう。地域や企業の「お世話志隊」隊員や「めぐりあいサポートセンター」職員があなたの婚活を応援します。



■会員要件/入会できる人は結婚する意思のある独身者で、自らも結婚のために努力している、次の事項に該当する方。

- ①: 小千谷市内に住所があるか、勤務している方
- ②: ①以外で将来小千谷市内に住所を持つ意思のある方

■申込方法/入会申込書と必要書類を「めぐりあいサポートセンター」に直接持参してください。郵送では受け付けできません。なお、センターのご利用は完全予約制ですので、事前に電話で利用日時の予約をお願いします。地域や企業の「お世話志隊」隊員に登録を依頼することも出来ます。「めぐりあいサポートセンター」職員も「お世話志隊」隊員も会員の個人情報保護には万全を期します。

■入会に必要な書類/

- 独身証明書1通 (本籍地の市町村の戸籍担当窓口で有料で発行しています。なお申請は本人に限ります)
- 写真付公的証明書1部 (運転免許証、パスポート、住民基本台帳カードなどを持参ください。コピー後お返しします)
- カラー写真1枚 (3か月以内に撮影したもので、上半身縦型L判以上のサイズ)

■入会金・登録料/入会にかかる費用、相談や検索などめぐりあいサポートセンターを利用する費用は無料です。ただし、必要書類をそろえる費用、「めぐりあいサポートセンター」までの交通費は個人負担です。

■登録開始日/9月1日(火)

※入会申込書は、ご連絡をいただければ郵送します。登録時に記入していただいても結構です。また、環境が整い次第、専用ホームページでダウンロードできるようにします。

■申込・問い合わせ/めぐりあいサポートセンター ☎83-1384 (土川1-3-3市民会館内) 午前9時~午後5時 (土日祝日を除く)

市税等の納期限

- 8月31日(月)
- 市・県民税 (2期)、国民健康保険税、介護保険料、後期高齢者医療保険料 (8月分)
- 問い合わせ/税務課管理収納係 ☎83-3508

善意に感謝
図書館へ
長岡信用金庫から (長岡しんきん地域振興基金の助成事業として) 図書館用木製書架2基
市内小中学校へ
JA越後おぢやから (教育図書購入費として) 図書券10万円



小千谷を描く No. 373 入道雲湧く (山本にて)

山本の農道に来てみると、入道雲と屋根の照り返しでの熱風景となっていました。この暑さの中での国政選挙となり大変でしょうが、今日のような入道雲で思い出されるのが、昭和20年の同じ8月のことです。長岡空襲、広島・長崎に原爆、ソ連参戦、そして終戦へと、8月半月の出来事です。

各立候補予定のみなさんの、それぞれの主張は自由ですが、真夏でお盆もあります。過去の8月への鎮魂と自戒の気持ちだけは共に忘れないでいただきたいと思います。頑張ってください。

(絵と文は西脇正久さん)

編集後記

● 県展の小千谷展を取材しました。県展の当市での開催は5年ぶりとのこと。さすがに県内美術の一大祭典とあって、展示された作品のすばらしさに、素人の囃も見とれてしまいました。

こんな作品を創作できたら楽しいのだろうなと、かなわぬ感想を抱きながら会場を回りました。

● 7月中旬、今年で2回目になる東京都江戸川区の中学生教育体験旅行(農家民泊)を我が家でも受け入れました。昨年同様、女子生徒3人の受け入れです。あいにくの雨で作業などは今ひとつでしたが、生徒たちが待望していたという農村ドライブは何とが実現させました。夕食後は妻が生徒から悩みを聞くなどして親密度を深めたそうです。閉村式後一掃りたくない」としがみつき号泣する生徒たちの姿が目につきました。

● 左の写真のトンボをご存知ですか? 県が作成した「レッドデータブックにいた」では絶滅危惧Ⅱ類に指定される大変貴重なトンボで「アオハダトンボ」といいます。このトンボがなんと市内で確認されたそうで、先日、撮影した方から写真をお借りすることができました。

このトンボの生息は県内でも数例で、市内では公式の確認記録がないそうです。そんな貴重なトンボが棲むおぢやの自然大切にしていきたいですね。



オス



メス